
世界をわたる少女

NEW GENERATION

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

世界をわたる幼女

【Nコード】

N6563Y

【作者名】

NEW GENERATION

【あらすじ】

現実世界で事故に会い、死んでしまう主人公（男）。しかし目を覚ますと目の前に自称下っ端神様という幼女が！その神様のミスにより死んでしまった主人公は神様と融合することにより消滅を免れる。そして下っ端神様としてお偉いさん方を楽しませるという無茶ぶりをうけ様々な世界に幼女（中身は男）として物語に介入してゆく

みたいな感じ？ですかね。

プロローグ

やあ、初めまして。

俺の名前は高野京耶。高校三年生だ。

いや、だった……って言うのか？

まあ、そんなことはどうでもいいんだ。

君たちは天国や神様、幽霊、挙げ句の果てには転生とか、そういう
た類のものを信じているか？

え？俺はどうなのかって？

俺は信じてない。だって

「なので、あなたには私と融合することによりあなたがいた世界より生まれた、別の世界へ……って、聞いてますか!？」

信じたくないから。

拝啓

母さん、親父、天国のおじいちゃんおばあちゃん…。

俺こと高野京耶は死んでしまいました。

親父……あの世はあったよ……。ここにあった…。

しかもね、なんか見知らぬ少女から私と融合してくださいとか、責任をとらせてくださいとか言われるし…

俺なんか悪いことしたっ!？

いじめだぜこれ！？目が覚めたら訳わからんとこにつれてこられて謎の少女から

「あなたは死にました」

とか言われた後に

「私と融合してくれませんか？」

とか、馬鹿じゃねえの！！

笑えねえよ！！

「む。馬鹿とは失礼ですね。それでも神様ですよ？下端ですが」

黙れ少女。俺のストライクゾーンと真ん中だとしても言っていないことと悪いことがあるんだ！

そして俺の心を読むな！

「よ、幼女！？……いえ、そんな事いつてる場合じゃない…。落ち着け私」

ぬ。幼女（神）が両手を胸に当てて深呼吸している。なかなか可愛いじゃないか。

「……………」

ようじよは きょうやに じとめを つかった！

きょうやは もだえ くるしん だ！

「それで！私と融合しないとあなたが消滅しちゃうんです！あなたが死んでしまったのは私が原因です。なので私は責任をとらなきゃいけないのです。分かりましたか？」

いや、分かりません。

「では融合しましょう。私からするので動かないでくださいね?」

話をきけええええええ!!なにこの幼女!?っーかこっちこないで!
!しかもなにその構え、だっさ!

「ふゅーじょんっ!」

ちよっ…まっ…

いいいいいやああああ!!

ブログ続（前書き）

ブログが分かれてしまった…。

き、気にしない気にしない。

そ、それではどうぞ。

プロローグ続

「…ん…う…」

どうやら俺は眠っていたようだ。
目を開きまわりを見渡してみるといつもと変わらない、見慣れた自分の部屋である。

夢……か。

それにしてはリアルだったな。
リアルに悪夢だった。いや、ある意味悪夢じゃないけど。

そんな悪夢？を見たせいからか、汗で服が湿っていて気持ち悪いことこの上ない。あとで風呂でも入るか…。

それにしても、まったく…少女が融合してくれ…とは。

…………… 末期だな…。

な、なにがとは言わないぜ？それにこの目からでてるのは鼻血の一

種だからなっ!?

…とりあえずいろいろ覚ますために顔でも洗いにいくとするか。
そう思い、洗面所へ行こうと立ち上がる。

「……………」?

なんだ? やけにいつもより視線が低い気がする…。それにこのなんとも言えない違和感が俺の不安をかきたてる。

「いや……………まさかな…」

さらにはどこからか素敵なロリヴォイスも聞こえてる。

そんな素敵ロリヴォイスはスルーし、ある所へと手を伸ばす。

しかし目的のモノは見あたらず、掴もうと握った手は虚しく空をきつた。

「……………」

全身から冷や汗がダラダラとでてくる。

ダッシュで洗面所へとむかい、鏡で自分の姿を確認。

俺の希望を砕くように、そこにいたのはあの夢に出てきた少女（神）と瓜二つな美少女だった。

なにこの少女かわいい。毎朝僕に死者の目覚めをしてくださあい！。

HA HA HA！

そんな馬鹿なああああ！！

いや、まで落ち着け。こんな時こそ深呼吸だ。

スー、ハー、スー

「お、目が覚めたか」

どこからかそんな声が聞こえたと思ったら、目の前に変なオッサンが現れた。

「ブツ!？」

「なんだ失礼な奴だな。いきなり吹き出しやがって」

「てめーも失礼だろ!？」

「ここ俺んちだぞ!不法侵入で訴えるぞ!？」

「俺んち?おかしい事を言うもんだな。説明を受けなかったのか?」

なんだなにが言いたいんだ目の前のオッサンは!

「ここはお前のもっとも安心できる場所を映し出す場所だ。まあそういう意味では一応ここはお前の家だな」

「有栖から言われたはずだぞ。融合した後はこの空間にやってくる、

と。あ、ちなみに有栖って俺の部下でお前と融合した奴の名前な」

「そんな…」

あれは夢じゃなかった…？それじゃ俺は本当に死んじまったってことかよ…。

……ま、しょうがないか…。

「俺は…これからどうなるんだ…？」

「これからは俺の部下として神界で働いてもらう。と、言いたいところなんだが実は上から直々に命があつてな。『いろんな世界へ言つて物語に介入し、我らを楽しませろ』だってよ。」

そんなんでいいのか神界…。
上の奴に会ってみたいな。

「今からとばすから。世界、能力、+ をクジで決めるぞ。さあ、引け」

どっから出したか謎だけど気にしてもどうせ意味ないので無視。
えっ…と…？

世界が>真・恋姫+夢想<、能力が>射撃チート<、+ が>スキル：成長抑制A+<……………。

え、なにこれ。

「決まったか。それじゃいくぞ」

「は？もう」

「

「セイツ！」

「ぎゃあああああー！！」

ああ、神様って人の話聞かないのか…などと思いながら俺の意識は闇へと沈んでいった…。

ブログ続（後書き）

どうしよう…。

転生にするかそのままもってくか…

いまだに悩む。

主人公設定（前書き）

こんにちは。

呼んでくださる方、ありがとうございます。

ネタがありません。

強いてあげるなら来週から期末テストですね。どうでもいいですが。

それではどうぞ。

主人公設定

たかのきょうや
高野京耶

性別：女

恋姫世界での名は高京字こうけいはない。

真名は利花りか。

本編の主人公。

前世はただのオタク。性格は結構お調子者でアホ。たまにすごい。プロローグでは周りが酷かったため常識人ぽかったが、実質こいつもアホ。神様のミスにより事故にあい存在が消滅しかけたが、幼女（神）と融合し、免れる。

幼女（神）と融合したことにより体は幼女、しかし中身はそのまま。さらにはなんとなく神にもなっていたりする。ちなみに本人は知らない。

上の方々に無茶ぶりをうけて恋姫世界へ転生。

生まれて数ヶ月で森に捨てられるが恋姫世界の超人的な肉体＋前世の記憶＋作者の都合＋主人公補正＋原作知識により、すすくと元気な幼女に育つ。後略。

F a t e風ステータス

筋力 D

耐久 -

魔力（気） A

俊敏 A

運 D

スキル

気配操作：C

気配遮断の上位スキル。もちろん遮断もできる
後は割愛。

気：A

気を使える

後は（ry

射撃特化：A +

武の才能が遠距離に特化する。基本的に射撃系統なら大抵できるようになるがその分、耐久などが低下する。Aクラスまでいくと弱いを通り越して残念な域になる。どのくらいかというと民間人のパンチで骨何本かもっていかれ、武将の場合なんとか死なないぐらい。ちなみに物理法則を無視する。例えば突くために趙雲の槍（名前忘れた。竜牙？竜胆？）を使うと、重さに耐えきれず手首が折れるが、投げる為に同じ槍を使うとランサーもびっくりな速度で投げる。

え？なぜかって？チートだからだよ。

矢除けの加護：B

割愛。ランサーとかに聞いて。

1・高京、捨てられる。（前書き）

こんにちは。

前回の設定で成長抑制を入れ忘れてました。

まあ簡単にいうと不老で10〜12歳くらいで成長が止まります。
ちなみに不死ではないので再生とかもしませんし、普通に死にます。

今回はですねえ、最初コメディを書くということで堅苦しくなく、
軽く、地の文を少なくしようと思気込んでいたのですが失敗しました。
すいません。

それでもいいという方はどうぞ。 1

1・高京、捨てられる。

や、またあつたな。

高野京耶だぜ。

あの後俺は無事恋姫世界に誕生した。

黒歴史が大量に生まれた初めの2ヶ月。

新たな両親に戸惑ったり、驚異的な早さで歩いたり、喋ったりできるようになってもう3ヶ月…。

そして、雪が溶け、まだ肌寒いがゆっくりと街が春の面影を帯びてきた頃……高野京耶あらためまして高京、真名を利花と申しますこの私は……

捨てられました。

冗談とか某ハッスルおじいちゃんの修行（笑）とかじゃなく、真面目に。

緑。

圧倒的なまでも緑色が俺を包んでいる。

そこは、あたり一面見渡す限り、木で埋め尽くされていた。

その中に、ほかのものとはあきらかに違う、一際大きい木を見つけた。

それはどこことなく神秘的で、一つの意志のように、ただ、肅然として佇んでいる。

まるで、この樹は意志さえ持っているのだと錯覚するほど、この場所だけが、森から切り離されたようだと感じた。

見るもの全て、自らの世界へ引きずり込むような、そんなチカラがこの樹に宿っていた。

だから、なのだろうか。俺の心はかつてないほど静かに、そして

神への純粋な殺意に燃えていた。

「……………」

この森に捨てられた直後、あのオッサン（神）からテレパシー的

なものがきた。

その時にいろいろと説明を受けたんだ。

曰わく、「お前が捨てられたのは私がそう設定したから」と。

曰わく、「射撃の技術はあくまでも才能がチートだから自分で鍛える」と。

曰わく、「今のお前超かわいい。ちょっと撫でさせろ」と。

それに対する俺の返事はこうだ。

「え？死んでください。つか、俺が殺す。今すぐ殺す」

そしたらアイツ、一方的に切りやがった。

.....

上等じゃねえか...！

絶対エいつか殺す...！

そのためにもまず体を鍛えないといけない。

それに射撃系統でいろいろ確かめたいこともあるし。

あ、ちなみに気は既に使えました。チートってすごい。

さあこれからいそがしくなるぜ！

打倒！オッサン！！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6563y/>

世界をわたる幼女

2011年11月27日12時51分発行